

JCI-TC-083A「混和材料から見た収縮ひび割れ低減と耐久性改善に関する研究委員会」

第2回 拡大WG1 議事録

日時：2009年6月12日

場所：JCI 第3会議室

参加者：(敬称略)山田幹事長，閑田主査，石川嘉崇主査，石川雅美，井上，大谷，小田部，川端，谷村，中山，福留，野々目，今本(議事録)

資料：WG-1-2-0 第1回拡大WG1 議事録(案)

WG-1-2-1 第1回拡大WG1 協議事項

WG-1-2-2 コンクリートと鉄筋ひずみの適合性に関する事前検討(案)

WG-1-2-3 試験体ひび割れ図

WG-1-2-4 質量減少率と収縮ひずみの関係

WG-1-2-5 ひび割れ抵抗性試験 実験計画概要(案)

WG-1-2-6 実験の組み合わせと担当(案)

WG-1-2-7 シリカフェーム実験研究計画(案)

議事(主な内容のみ記載)

1. 資料WG-1-2-2～4：谷村委員より説明。

- ✓ 拘束試験体のひずみは断面内各位置で概ね一致しており，試験区間における鋼材とコンクリートのひずみの適合性については問題ないと判断。
- ✓ 定着長さの影響：200mm(試験体長さ700mm)でも定着不良は認められない。安全をみて定着長さは2×400mm,試験区間300mm(試験体長さは1100mm)とする。

2. 資料WG-1-2-5：閑田主査より説明。

- ✓ 標準仕様は乾燥収縮ひび割れを対象とし，資料WG1-2-2の方法をベースに進める。
- ✓ 基本スタンス1：自己収縮を考慮した計測はオプションとし，計測方法は原則，資料WG1-2-5に準じる。
- ✓ 基本スタンス2：試験方法を提案するのではなく，できる限り条件を揃えた中で材料の定量比較を行うことを目的とする。
- ✓ 拘束ひび割れ試験は鉄筋ひずみ計測のみとする。
- ✓ 自由収縮試験：上記とあわせて計測時間間隔は1hとする。
- ✓ 質量変化率用試験：試験体を別途作製の上，計測する。
- ✓ 強度試験：乾燥開始時および材齢28日とする。
- ✓ リード線の出し位置：定着変更区間では出さない。スリップ区間外で出す。
- ✓ 自由収縮計測はPMFLで行う。KM100Bでも勿論可。
- ✓ 拘束ひび割れ試験案：1200 1100mmに修正。
- ✓ 乾燥開始までの養生方法：型枠存置とし，テフロンなどによるコンクリートと型枠の縁

切りはしない。ただし、オプションで自己収縮を計測する場合は縁切りをしてもよい。

3. WG-1-2-6~7 シリカフェーム実験研究計画(案)

- ✓ シリカフェームの要因を加える。詳細なパラメータは今後検討する。担当：福留委員
- ✓ FAの細骨材置換バージョンを追加する。担当：石川委員
- ✓ FAの40試験を石川(嘉)委員が担当する可能性について、FAの20での実験を重複担当している蔵重委員とも相談して、その可能性を検討する。
- ✓ 委員会報告までに試験結果を各機関で論文発表いただきたい。(閑田)
- ✓ 本日の議論を反映して、WG-1-2-5の資料を修正して配布する。(閑田)

4. その他

- ✓ 拘束鋼材の発注：閑田主査がまとめて発注。遅れる場合は担当者が個別に対応する。
- ✓ 高性能AE減水剤でスランプ調整。
- ✓ セメント：共通品(谷村委員担当)送料は着払い。
- ✓ 高炉スラグ：共通品(檀委員担当)送料は着払い。
- ✓ フライアッシュ：共通品(石川委員担当)、材料費(約7000円/ton)+輸送代金を合わせて請求書を送付して、振込み払いをお願いしたい。(荷姿は25kgの袋入りで提供の予定)
- ✓ 上記3材料の送り先・必要量を閑田主査に連絡取りまとめて発注(発注から到着まで約10日)。
- ✓ AE剤：同一銘柄(共通にこだわらない)
- ✓ 高性能AE減水剤：同一銘柄(共通にこだわらない)
- ✓ 細骨材の表乾の判断は研究機関に委ねる。
- ✓ 工程：7月初旬に材料・道具調達見込み。試験は上期実施見込み。
- ✓ データ取りまとめ：生データ：基本的に委員会内でも公開しない。但し、各機関で合意に基づいてデータ交換をすることは可。

5. 次回委員会

日時：次回全体委員会を兼ねて9月24日(木)13:00~17:00の間に実施。

場所：JCI会議室

<文責 今本>